

## 感染症対策のための実地研修の実施について

---

- 厚生労働省では、「障害者支援施設及び障害福祉サービス事業所等における感染症対策力向上支援業務」の一環として、障害福祉サービス施設・事業所職員のための感染対策マニュアルの作成の他、障害福祉サービス等事業所に感染症専門家を派遣し、実技指導、助言等を行う実地研修を実施した。
- 以下、実地研修の報告となるが、特に実地研修中の質疑応答には、現場の感染症対策に関連して感染対策マニュアルよりも具体的に詳細な内容が含まれているため、障害福祉サービス等事業所においては、同類の障害福祉サービス類型の事業所の報告を参照する等ご活用いただきたい。

## (1) 実地研修の概要

実地研修は感染症対策に関心がある事業所を対象に実施した（図表1）。また、講師は当該地域の感染症対策に詳しい医療従事者を選定した。実地研修の主な実施内容については以下の通りである。

- ①事業所内の感染対策管理  
ゾーニングの方法、居室・共用スペース・スタッフルーム等の消毒方法
- ②感染発生時の対応  
居室内における支援、活動スペースの支援の方法  
食事、入浴、トイレ等の注意点
- ③PPE（個人防護具）の装着方法  
マスク、ガウン、キャップ、フェイスシールド

図表1 研修実施事業所概要

	実施事業所	都道府県	障害福祉サービス類型	頁
①	NPO 法人 銀河	青森県	・児童発達支援 ・放課後等デイサービス ・障害児相談支援	5
②	社会福祉法人 りべるたす	千葉県	・居宅介護 ・重度訪問介護 ・同行援護 ・短期入所 ・自立訓練 ・就労移行支援 ・就労継続支援（B型） ・自立生活援助 ・共同生活援助 ・障害児相談支援	7
③	株式会社 ベストサポート	千葉県	・放課後等デイサービス ・短期入所 ・障害児相談支援	10
④	社会福祉法人 同朋会 伊自良苑	岐阜県	・短期入所 ・生活介護 ・施設入所支援	12
⑤	社会福祉法人 富山市桜谷福祉会 富山市恵光学園	富山県	・放課後等デイサービス ・児童発達支援 ・保育所等訪問支援 ・障害児相談支援	15
⑥	社会福祉法人 弥栄福祉会 くまとり弥栄園	大阪府	・共同生活援助 ・居宅介護 ・短期入所 ・重度訪問介護 ・同行援護 ・生活介護	18

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労継続支援（B型）</li> <li>・障害児相談支援</li> </ul>	
⑦	社会福祉法人 こもはら福祉会 はなの里	三重県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅介護</li> <li>・短期入所</li> <li>・生活介護</li> </ul>	20
⑧	社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団 神戸愛生園	兵庫県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活介護</li> <li>・施設入所支援</li> <li>・短期入所</li> </ul>	22
⑨	社会福祉法人 ひらきの里	山口県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活介護</li> <li>・就労継続支援（B型）</li> <li>・就労移行支援</li> <li>・放課後等デイサービス</li> <li>・自立訓練（生活訓練）</li> </ul>	25
⑩	社会福祉法人 第一長崎慈光園	長崎県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活介護</li> <li>・短期入所</li> <li>・施設入所支援</li> </ul>	27
⑪	社会福祉法人 落穂会 あさひが丘学園	鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害児入所施設</li> <li>・施設入所支援</li> <li>・生活介護</li> <li>・短期入所</li> </ul>	29
⑫	社会福祉法人 みんなでききる	新潟県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共同生活援助</li> <li>・生活介護</li> <li>・放課後等デイサービス</li> </ul>	31
⑬	社会福祉法人 祉友会 リバティ神戸	兵庫県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設入所支援</li> <li>・自立生活援助</li> <li>・短期入所</li> </ul>	34

## （２）実施結果

実施事業所ごとの講師および実施日は以下の通りである。

### 講師および実施日

実施事業所	講師	実施日
NPO 法人 銀河	毛利暢子 碓ヶ関診療所 感染管理 認定看護師	2021年2月20日 (土)
社会福祉法人 りべるたす	門倉圭佑 千葉県衛生研究所 薬剤 師、FETP 講師	2021年2月23日 (火)
株式会社 ベストサポート	門倉圭佑 千葉県衛生研究所 薬剤 師、FETP 講師	2021年2月23日 (火)
社会福祉法人 同朋会 伊自良苑	尾崎明人 朝日大学病院 感染対策	2021年2月25日 (木)

	室 看護師長 感染管理 認定看護師	
社会福祉法人 富山市桜谷福祉会 富山市恵光学 園	小泉順平 独立行政法人国立病院機 構 富山病院 感染管理 者	2021年2月24日 (水)
社会福祉法人 弥栄福祉会 くまとり弥栄園	渡部昌子 社会福祉法人ウエル清光 会 法人本部看護教育責 任者	2021年2月17日 (水)
社会福祉法人 こもはら福祉会 はなの里	新居晶恵 三重大学医学部附属病院 感染制御部看護師長	2021年2月16日 (火)
社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団 神戸愛生園	萬井美貴子 医療法人川崎病院 感染 管理認定看護師	2021年2月17日 (水)
社会福祉法人 ひらきの里	神崎多紀子 山口赤十字病院 感染管 理認定看護師	2021年2月15日 (月)
社会福祉法人 第一長崎慈光園	藤田利枝 県北保健所所長	2021年2月22日 (月)
社会福祉法人 落穂会 あさひが丘学園	酒井真博 社会医療法人緑泉会米盛 病院 感染管理認定看護 師	2021年2月10日 (水)
社会福祉法人 みんなでいきる	村田忍 上越総合病院 感染症認 定看護師	2021年2月26日 (金)
社会福祉法人 祉友会 リバティ神戸	新井まゆ子 神戸市立西神戸医療セン ター 感染症看護専門看 護師/感染管理認定看護 師	2021年2月18日 (木)

(敬称略)

## ①NPO 法人銀河

### I 実施法人、事業所概要

- ・都道府県：青森県
- ・サービス類型：通所系事業、訪問系事業
- ・障害種別利用者数：知的障害者 464 名、身体障害者 12 名、重度心身障害者 13 名
- ・職員数：25 名（現場スタッフ 20 名、事務スタッフ 5 名）

### II 講師概要

- ・毛利暢子（碓ヶ関診療所 感染管理認定看護師）

### III 法人が行っている感染症対策および課題

#### 感染症教育

- ・全スタッフへ感染症対策マニュアルを配布している。

#### 感染症対策

- ・新型コロナウイルス警戒レベルを施設として設定している。
- ・職員が感染拡大地域へ外出する場合や施設に来所者がある場合、事前に所属長へ相談してもらっている。
- ・周辺地域で新型コロナウイルスの感染者が発生した場合、来所者を制限している。
- ・利用児の帰園後、事業所内の除菌、洗浄を実施している。

#### 感染症対策委員

- ・感染症対策委員会を設置しており、不定期にて会議を実施し、近隣地域における新型コロナウイルス発生状況や法人とし

での対応を確認・検討している。委員会での決定事項は職員に対しミーティングで周知している。

#### 法人が考える課題

研修の事前アンケートでは新型コロナウイルス対策に関して以下のような課題・疑問が施設から挙げられた。

- ・新型コロナウイルス警戒レベルや BCP を策定しているが、その内容が対策として適切か不安がある。
- ・全スタッフへ配布している感染症対策マニュアルについて内容の理解徹底がなされていない。

### IV 研修実施過程

- ・感染管理についての講義（座学）
- ・防護服の着脱・手指衛生（手洗い・消毒）についての実技（蛍光塗料・ブラックライト、絵の具を用いて、防護服の着脱時、注意すべき点や普段の手洗いの洗い残しを可視化）
- ・ゾーニングの現場指導



## V 特記事項

- ・着脱演習のガウンについて、現場で使用しているものに近いものを講師が持参し演習を行った。
- ・施設で感染症対策マニュアルや事業継続計画（BCP）を事前に提供してもらうことで、修正・更新すべき点なども講師から細かく説明を行うことができた。

## VI 受講後の受講者の感想

研修の事後アンケートでは研修の内容について以下のような感想があげられた。

### 受講者の感想

- ・講師の方の話が大変分かりやすく、防護服の着用や手指消毒等、具体的な手順を実際に体験することができた。

### 今後研修を開いてほしい内容

- ・新型コロナウイルスが施設で発生した場合の具体的なゾーニングの方法
- ・BCP の活用など法人全体を通した新型コロナウイルス感染予防対策

## 実地研修中の質疑

Q：PPE（個人防護具）がない場合に何を代用品として使用すればよいか。

A：ゴミ袋をカットして代用するとよい。ゴーグルがない場合は、クリアファイルを加工したり、キャップがない場合はレンジフード（不織布）を利用することもできる。

Q：絨毯やクッションに嘔吐した場合、どのように洗濯すればよいか。

A：熱水洗濯ができない場合、全てハイターに漬けた上で洗濯をする。色落ちなどが気になる場合、スチームアイロン（80℃以上）を使用するとよい。

Q：換気時に意識すべきことはなにか。

A：定期的な換気は必要だが、伝播経路を絶つ（手指衛生や目・鼻・口に触れない）こと意識するとよい。



## ②社会福祉法人 りべるたす

### I 実施法人、事業所概要

- ・都道府県：千葉県
- ・サービス類型：入所系事業、通所系事業、訪問系事業
- ・障害種別利用者数：知的障害者 4 名、精神障害者 15 名、身体障害者 72 名、  
重度心身障害者 7 名
- ・職員数：160 名（現場スタッフ 135 名、事務スタッフ 25 名）

### II 講師概要

- ・門倉圭佑（千葉県衛生研究所 薬剤師、FETP 講師）

### III 法人が行っている感染症対策および課題

#### 感染症教育

- ・職員全員に対して年に 1 回一般的な感染症対策の研修を実施している。

#### 感染症対策

- ・職員に対して、手洗い・手指アルコール消毒や咳エチケット、マスク使用を徹底している。また、公共交通機関の利用の制限、外食や密になるような会合の自粛を要請している。
- ・利用者への介助時には手袋・ゴーグルを着用し、ケアの時間を 15 分以内に収めている。また、ケア後の手洗い消毒を徹底している。
- ・ケア会議および研修などにはできる限りオンラインでの参加としている。
- ・利用者の面会禁止を徹底し、通院についても自粛を要請している。
- ・利用者、職員ともに発熱者を法人で経過

管理している。

- ・緊急事態宣言中には、新規入居や体験は原則としては受け入れ中止とし、やむを得ない場合には PCR 検査で陰性だった場合のみ受け入れている。

#### 感染症対策委員

- ・感染症対策委員会を設置しており、毎月 1 回委員会を開催している。委員会では感染症に対する教育、発症時の対応方法を検討し、決定内容を職員に周知している。

#### 法人が考える課題

研修の事前アンケートでは新型コロナウイルス対策に関して以下のような課題・疑問が施設から挙げられた。

- ・公共交通機関の自粛規制をどこまでかけたら良いか判断に迷っている。
- ・密にならないような研修の環境の作り方について、どのようにしたらよいか悩んでいる（人数、換気、パーティション、時間など）。

#### IV 研修実施過程

- ・新型コロナウイルスについて(特徴や他のウイルスとの比較)
- ・感染管理と予防策について指導(経路別感染予防策や手指消毒、防護服着脱の注意点を事例と動画を用いて指導)
- ・ゾーニングの指導  
(いずれも座学)



#### V 特記事項

- ・はじめに新型コロナウイルスについてしっかりと指導があり、他のウイルスとの比較や日本と世界の現状について説明を行った。
- ・手指消毒、防護服の着脱については、動画を用いて指導を行い、特に防護服の着脱については誤った認識や陥りやすいミスなど分かりやすく解説を行った。
- ・研修会場のキャパシティと立地場所の事情により、PPE(個人防護具)の着脱やゾーニングの現地指導が実施できなかった。

#### VI 受講後の受講者の感想

研修の事後アンケートでは研修の内容について以下のような感想があげられた。

##### 受講者の感想

- ・新型コロナウイルスについてあらためて認識することができた。闇雲に規制するのではなく、感染のルートを考えながら正しく効果的に対応することが必要であることがわかった。
- ・スタッフや入所者の安全管理と体制構築についても丁寧に情報収集して対応していかなければならないと痛感した。
- ・ウイルスを拡散しないためにどういった対応が大事か今回の研修に参加できなかった職員にも伝えて実践していきたいと思った。
- ・適切な感染対策を教えていただき、今まで法人として取り組んでいた対策が正しかったと確認することができた。

##### 今後研修を開いてほしい内容

- ・感染管理の具体的な事例検討会
- ・施設内で新型コロナウイルスの感染者が発生した場合に行うべきこととその流れについて

##### 現地研修中の質疑

Q: 職員への公共交通機関の利用制限はいつ解除すればよいか。

A: 電車、市営バスでの感染は限りなく低いため、必要に応じて使用してもらって良いのではないかと。ただし、飛行機やバスツアーでの感染事例はあるため注意が必要である。

Q：職員向けの研修実施時、集合での研修ができておらず、WEB のみで研修を行っている。オフラインで研修を行う場合、何人位までにして、対策はどのようなものが良いか。

A：部屋の十分な換気、シールドなどの対策があれば行って良いと考えている。パーティションの用意や席を1つ空けるなどして研修を実施すればよい。



### ③株式会社 ベストサポート

#### I 実施法人、事業所概要

- ・都道府県：千葉県
- ・サービス類型：通所系事業、訪問系事業
- ・障害種別利用者数：知的障害者 180 名
- ・職員数：71 名（現場スタッフ 68 名、事務スタッフ 3 名）

#### II 講師概要

- ・門倉圭佑（千葉県衛生研究所 薬剤師、FETP 講師）

#### III 法人が行っている感染症対策および課題

##### 感染症教育

- ・安全管理委員会を設置しており、委員会で新型コロナウイルス対策の研修を実施し研修報告を全職員に配布している。
- ・危機管理感染症対応マニュアルを作成し、全職員に配布している。

##### 感染症対策

- ・職員や職員家族が体調不良の場合、欠勤してもらっている。
- ・多くの人が入り出る場所に非接触体温計を設置している。
- ・休日を含めて、職員が他県へ行くことを制限している。

##### 感染症対策委員

- ・安全管理委員会を設定しており、注意喚起と研修を実施している。

#### 法人が考える課題

研修の事前アンケートでは新型コロナウイルス対策に関して以下のような課題・疑問が施設から挙げられた。

- ・濃厚接触者に濃厚接触した利用者を受け入れるかどうかの判断に迷うことがある。
- ・保健所から「事業所の判断で」と言われることが多いが、感染症対策マニュアルなどを含め、施設として基準をどのように策定したらよいか知りたい。

#### IV 研修実施過程

- ・新型コロナウイルスの特徴（座学）
- ・手指消毒、防護服着脱の注意点（動画）
- ・ゾーニングの指導（座学）



## V 特記事項

・はじめに新型コロナウイルスについてしっかりと指導があり、他のウイルスとの比較や日本と世界の現状について説明を行った。

・感染管理を行う上で注意すべき点、やりがちな間違いについて事例を踏まえて紹介した。参加者の反応も良く、質問も多くなかった。

## VI 受講後の受講者の感想

研修の事後アンケートでは研修の内容について以下のような感想があげられた。

### 受講者の感想

・専門家からの講義により幅広く知識の習得が出来たことで、やるべきことや注意すべき点がわかり不安が減った。

### 今後研修を開いてほしい内容

・研修は1度だけではなく、繰り返していくことが大事だと感じた。年に複数回研修を実施できるとよい。

### 実地研修中の質疑

Q: 新型コロナウイルス感染症の致死率は日本と世界で同等程度（2.1%）なのか。

A: 日本もおおむね同じ程度であるが、世界ではより高い国も見られる。

Q: 濃厚接触者を検知するアプリ（COCOA）で実際に接触者の追跡等が行われているのか。

A: アプリ（COCOA）に不具合等も見られるとの報告もあり、精度は不明だが、アプリ

（COCOA）を使用した疫学調査は行われている。

Q: 職員の健康観察時において風邪薬の仕様有無も確認すべきか。

A: 健康観察チェック時には、風邪薬や解熱薬を使用していないかどうかについても確認することが望ましい。解熱薬を使用すると発熱症状は緩和するが、体内からウイルス自体は除去されていないため、感染性が下がっている訳ではないことに留意する必要がある。

Q: 陽性者発生時に誰を濃厚接触者とするのかの判断は施設側で行ってもよいのか。

A: 保健所が繁忙の際には保健所がすぐに調査の対応ができない場合があり、その際には保健所と話し合ったうえで、施設側で実施することは問題ない。実際に施設側で濃厚接触者の判断をしている事例が複数ある。

## ④社会福祉法人 同朋会 障害者支援施設 伊自良苑

### I 実施法人、事業所概要

- ・都道府県：岐阜県
- ・サービス類型：入所系事業、通所系事業
- ・障害種別利用者数：2,322名
- ・職員数：51名（現場スタッフ47名、事務スタッフ4名）



### II 講師概要

- ・尾崎明人（朝日大学病院 感染対策室 看護師長 感染管理認定看護師）

### III 法人が行っている感染症対策および課題

#### 感染症教育

- ・感染症対応マニュアルを現場の各部署に配布し、部署ごとに会議等で確認している。

#### 感染症対策

##### ○職員の対策実施内容

- ・勤務中は不織布のマスクを着用している。
- ・手指消毒が随時できるように職員に携帯ボトルを配布している。
- ・休曜日を含め毎日の健康状態を記録し、看護師に提出している。体調がすぐれない場合には積極的に休むよう促している。
- ・勤務時間以外の行動について、感染しないための行動の自粛を随時促している。

##### ○事業所としての対策実施内容

- ・入所利用者と通所利用者との接触をできる限り減らすように、活動場所と従事する職員を分けた体制に切り替えている。
- ・入所者を5つの生活グループに分け、職員の勤務シフトをグループ毎に組んでいる。

##### ○利用者への対策支援

- ・2020年11月ごろより、入所利用者の外泊自粛を要請し協力を得ている。
- ・通所事業では利用者に少しでも異変があれば、休んでもらっている。
- ・新型コロナウイルスの感染者数が少なくなった時期には、入所者の自宅帰省やショートステイの受入も実施してきたが、必ず健康上の異変（発熱等）があれば、出入りを控えるようにしてきた。また、入所者の帰省時には行動履歴や健康観察の記録用紙を配布して、記入への協力を求めている。
- ・日々の健康促進のために、散歩する機会を普段以上に設けている。

#### 感染症対策委員

- ・各部署から保健給食委員が選出されており、感染症対策の検討や感染症対策マニュアルの見直し、実技を交えた研修を実施している。委員会での決定事項は各

委員から職員へ配属部署の会議において伝達している。

### 法人が考える課題

研修の事前アンケートでは新型コロナウイルス対策に関して以下のような課題・疑問が施設から挙げられた。

- ・施設内のゾーニングの方法について知りたい。
- ・新型コロナウイルス感染者への対応時の服装について知りたい。
- ・新型コロナウイルスの感染者の日常生活支援はどこまでしてよいのか知りたい。
- ・法人全体での感染症対策の研修は実施できておらず、各職員の習得度の確認が十分にできていない。

### IV 研修実施過程

- ・職員研修(新型コロナウイルスの基礎知識、予防策、ゾーニングの方法についての座学)
- ・PPE(個人防護具)脱着(実際のPPE(エプロン、キャップ、手袋、マスク)を使った演習)



### V 特記事項

- ・自施設の現地を見ながらのゾーニング演習を実施できるとなよかった。
- ・実技用の防護服の数が参加者分足らず、演習できない参加者が発生した。

### VI 受講後の受講者の感想

研修の事後アンケートでは研修の内容について以下のような感想があげられた。

#### 受講者の感想

- ・法人で行っている感染症対策の評価や課題の整理ができ、不十分どころが確認できた。また、しっかりとした対策を施せば必要以上に怖がらなくてもいいことを理解することができた。
- ・防護服の脱着について実技で学ぶことができてよかった。汚染されたものを脱ぐ際に1つずつ手指消毒をする必要性があるという話を聞き、認識を新たにすることができた。
- ・日々の一人一人の危機管理意識、行動が自身の安全、周りの人の安全を守ることの基本であると実感できた。
- ・質疑応答の時間も十分あり職員が日ごろ疑問や不安に思っていることを聞くことができて良かった。

#### 今後研修を開いてほしい内容

- ・特になし

#### 実地研修中の質疑

Q: マスクができない利用者のケアをする職員はマスクをしているだけでいいのか。  
A: マスクだけでは不十分である。飛沫により口からだけでなく目の粘膜からも感染の可能性があるため、フェイスシール

ドやゴーグルなどで必ず保護することが必要である。

Q：他県でクラスターが発生した施設において、感染が終息するまで感染者の髭剃りや歯磨きなどを控えたなどと聞いた。感染の危険を伴う支援は避けるべきか。

A：支援を全て止めることは現実的ではないが、歯磨きなど飛沫が飛びやすい支援についてはケアの方法に十分気を付け、職員のマスクやフェイスガード、手指消毒などしっかりとすることが必要である。



## ⑤社会福祉法人 富山市桜谷福祉会 富山市恵光学園

### I 実施法人、事業所概要

- ・都道府県：富山県
- ・サービス類型：通所系事業
- ・障害種別利用者数：知的障害児 52 名、  
重度心身障害児 6 名
- ・職員数：61 名（現場スタッフ 59 名、  
事務スタッフ 2 名



### II 講師概要

- ・小泉順平（独立行政法人国立病院機構  
富山病院、感染管理者）

### III 法人が行っている感染症対策および 課題

#### 感染症教育

- ・新型コロナウイルス対策の研修は未実施である。嘔吐処理やインフルエンザなどの一般的な感染症については、職員を対象に園内で研修を実施している。インフルエンザや水ぼうそうなどに罹り園内で症状が出た場合は、2階にある和室に園内看護師が隔離し、保護者が迎えに来るまで診ている。
- ・事務系スタッフに対しては感染症対策についての研修は未実施である。

#### 感染症対策

- ・職員または職員の家族が感染拡大地域に行く場合や県外に出掛ける場合、もしくは、家族が県外から帰省した場合は、移動届の提出を要請している。また、県外在住の家族に会う場合には2週間前から行

動を自粛するように職員に伝えている。

- ・利用者について朝昼の2回、体温を測り記入している。外部から施設にウイルスを持ち込まないために、必ずアルコール消毒をするように気をつけている。職員はマスク必須とし、園児はできる子に対しマスクの着用を要請している。

- ・おやつ前と食事前に園児の手洗い、消毒を実施し、食後はテーブルを清拭している。また、園児の帰園後には、取っ手や鍵等をアルコール消毒している。

- ・施設内の各部屋にオゾン発生器と加湿器付き空気清浄機を配置している。

#### 法人が考える課題

研修の事前アンケートでは新型コロナウイルス対策に関して以下のような課題・疑問が施設から挙げられた。

- ・利用者が日々多く、施設内が密になりやすい環境にあるが、施設の構造的に利用者を分散させることが難しいため注意点を教えて欲しい。

- ・利用者や職員に新型コロナウイルスの感染者や濃厚接触者が発生した場合、通所停止になることが想定されるが、その際の園内の消毒方法について知りたい。

・感染症対策にあたって園内で物的に何が足りていないか知りたい。

#### IV研修実施過程

- ・感染症対策基礎研修（座学）
- ・防護服の着脱方法実践（実技）
- ・手指消毒 飛沫感染対策の実践（実技）
- ・ゾーニングの現地確認指導（実技）



#### V特記事項

・標準予防策を基本とし、「この施設ではどうしていくことができるか」といった双方向の議論ができ、より施設に落とし込んだ対策を提案することができた。

・今回の研修で施設との関係を構築できたため、継続して再確認する学習会や情報共有していく場を持つていく必要があるように思われる。

#### VI受講後の受講者の感想

研修の事後アンケートでは研修の内容について以下のような感想があげられた。

##### 受講者の感想

- ・普段の自分の行いの中にリスクのある

こともあったと感じた。

・見落としがちな点、自分の対策方法では不十分な点を確認できてよかった。

・実践例を含め、自分の施設でどう取り入れたら良いのか講師と一緒に考えることができた点がよかった。

・防護服の正しい着脱の仕方について今まで学ぶ機会がなかったため、今回の研修で学ぶことができてよかった。

・子どもたちの手洗いばかり気にしていたが、まずは職員である自分自身を清潔に保つことが重要であると学んだ。

・消毒するときはふき取ることが大切、など明日からすぐに実践できることを学ぶことができてよかった。

・この情報は正しい、これは立証されていない、など講師にはっきりと教えていただいた点がよかった。

#### 今後研修を開いてほしい内容

- ・日常の療育現場でどの程度対策を行っているかの確認
- ・幼い子供たちへの感染対策
- ・実際に新型コロナウイルス感染者が発生した時のシミュレーション
- ・新型コロナウイルスワクチン接種後の注意点
- ・新型コロナウイルス対策をするうえで必要なグッズ紹介

## 実地研修中の質疑

Q：子供を抱きかかえる場合に現状は私服であるが、防護服を着ける必要はあるか。

A：ガウンやエプロンを着けて抱きかかえることが大切である。

Q：施設での仕事着と家族の洗濯物を自宅で一緒に洗っているが問題はあるか。

A：仕事着は80℃の殺菌が必要である。他の洗濯物と一緒に洗うことは避けたほうがよい。

Q：現状は子供が触ったものをさっと拭く程度だが消毒等の必要はあるか。

A：消毒は濃度が基準をクリアしていないと意味がないため、濃度管理を徹底したほうがよい。

Q：共同の洗面所を使用後、シンクやまわりを消毒する必要があるか。

A：シンクはもちろん、コック等も消毒する必要がある。

Q：現状床面の掃除は乾いたモップだが、よだれも多く効果的な方法はあるか。

A：ウエットモップで頻繁に吹くことが大切である。

Q：ボールプールやたくさんの遊具があるがよだれでひどい状況である。どこまでの消毒が必要か。

A：こまめな消毒が基本だが、出来なければ使用しないことも大事である。

Q：絵本の消毒はどうしたら良いか。

A：絵本は感染のリスクが高い。個人持ち

にするか、1人が使った後は必ず拭いてから次の子供に渡すようにルール化してほしい。

Q：職員がトイレの使用後自分のハンカチを一日中使っているが大丈夫か。

A：ハンカチは菌の増殖が速いため、ペーパータオルを使用することを推奨している。



## ⑥社会福祉法人 弥栄福社会 障害者支援施設くまとり弥栄園

### I 実施法人、事業所概要

- ・都道府県：大阪府
- ・サービス類型：入所系事業、通所系事業、訪問系事業
- ・障害種別利用者数：主として身体障害者 95 名（うち重度心身障害者 37 名）
- ・職員数：60 名（現場スタッフ 46 名、事務スタッフ 14 名）



### II 講師概要

- ・渡部昌子（社会福祉法人ウエル清光会 法人本部看護教育責任者）

### III 法人が行っている感染症対策および課題

#### 感染症教育

- ・現場系スタッフは新型コロナウイルス対策の研修を今年度 3 回実施し、日々の感染症予防対策の知識は身につけて実践できている。
- ・PPE（個人防護具）の着脱に関して知識としては習得しているが実施に際しては不安な面がある。

#### 感染症対策

- ・感染症対策マニュアルおよび新型コロナウイルスに対する事業継続計画を策定、配布し、それらに則り、対策を実施するよう周知している。

#### 感染症策委員

- ・感染症対策委員を設置しており、年間 3

- 4 回委員会を開催している。委員会では感染症に対する予防処置、実施方法を検討し、決定内容を職員に周知している。

#### 法人が考える課題

研修の事前アンケートでは新型コロナウイルス対策に関して以下のような課題・疑問が施設から挙げられた。

- ・ゾーニングについての具体的方法や、感染症発生時の PPE（個人防護具）の必要枚数が知りたい。

### IV 研修実施過程

- ・PPE（個人防護具）の着脱の実習
- ・講師の渡部氏が勤務する特養でクラスターが発生した際の対応策など、体験談を交えながら「現場の心得」について解説
- ・施設内をラウンドしながらゾーニング指導
- ・総論、参加者の感想をヒアリング



## V 特記事項

- ・講師の経験談を交えた「クラスター発生時の対応策」は、参加者から「リアルにイメージできた」との声が寄せられた。
- ・講師からは、歯科用の長めのフェイスシールドの着用がクラスターの収束に有効なツールだったと解説があった。

## VI 受講後の受講者の感想

研修の事後アンケートでは研修の内容について以下のような感想があげられた。

### 受講者の感想

- ・クラスターを経験された講師の方から、PPE（個人防護具）やゾーニング、職員の動線に関するアドバイスや感染収束のために苦労した話を聞くことができ、大変参考になった。

### 今後研修を開いてほしい内容

- ・今回のような実際の経験された内容を取り入れた研修を受講したい。

### 実地研修中の質疑

Q：4人部屋の入園者が感染した場合の対応はどのようにすればよいか。

A：陽性者は可能な限り入院させ、濃厚接触者である他の3人は感染拡大防止のためその部屋で隔離するのがよい。間仕切りがカーテンであっても2mの距離を保てば問題ない。

Q：ゾーニングした際、配膳カートの扱い方法について知りたい。

A：レッドゾーンに配膳カートを持ち込むのはよくない。エレベーター（グリーンゾーン）の前にテーブルなどを設置し、カートをエレベーターに残した状態で設置したテーブルにトレイを並べ、そこから配膳することが望ましい。

Q：ゾーニング後、動線が確保できにくい場合はどのようにすればよいか。

A：外階段を活用し、屋外にテントを設置してスタッフの更衣室などに利用する。この施設は各居室がベランダと一体化した構造であるため、レッドゾーンの居室には外階段を使ってベランダから入室する方法もある。



## ⑦社会福祉法人 こもはら福社会 はなの里

### I 実施法人、事業所概要

- ・都道府県：三重県
- ・サービス類型：入所系事業、通所系事業
- ・障害種別利用者数：身体障害者 665 名
- ・職員数：28 名（現場スタッフ 25 名、事務スタッフ 3 名）



### II 講師概要

- ・新居晶恵（三重大学医学部附属病院 感染制御部看護師長）

### III 法人が行っている感染症対策および課題

#### 感染症教育

- ・法人全体で感染症対策の研修を年に 1 度実施している。
- ・標準予防策の知識は、入社時の研修で説明し、他の機会においても書類にて職員に配布している。

#### 感染症対策

- ・施設としての新型コロナウイルス対策の指針について、各部署に書類にて配布している。そこでは会議やデイサービスをどう実施するか、面会や施設間の移動をどうすればよいか、などの指示について記載している。

#### 感染症対策委員

- ・感染症対策委員会を設置しており、年 4 回委員会を開催している。ノロウイルス、インフルエンザなどの一般的な感染

症への対応方針の検討に加え、新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの見直しを行っている。

#### 法人が考える課題

研修の事前アンケートでは新型コロナウイルス対策に関して以下のような課題・疑問が施設から挙げられた。

- ・複合施設である為、同一建物内に多数の事業所があり、どのようにゾーニングすればよいか不安である。また、認知症の利用者や感染症について理解困難な利用者の隔離の方法について知りたい。
- ・感染症が発生した際のエレベーターの利用はどうしたらよいか知りたい。

### IV 研修実施過程

- ・新型コロナウイルスの総論
- ・感染対策の基本
- ・手指衛生の演習
- ・PPE（個人防護具）着脱演習
- ・清掃演習
- ・ゾーニング演習



## V 特記事項

- ・本施設は身体障害者施設と高齢者施設が一体となった規模の大きい施設であり、研修参加者は新型コロナウイルスの感染者や感染疑いのある人が発生したときのゾーニングについて懸念していたため、実際の図面を使って演習を行った。
- ・手指消毒や手洗いについて、職員がわかっていたつもりでも出来ていなかった部分があり、新たな気づきも多かったように思われる。

## VI 受講後の受講者の感想

研修の事後アンケートでは研修の内容について以下のような感想があげられた。

### 受講者の感想

- ・実際に職員や利用者に新型コロナウイルスの感染者が出た場合にどう対応するか、不安があったが、自施設の平面図を利用して指導してもらうことで現実感があり安心した。また、講師の説明が具体的かつ的確で、大変参考になった。

### 今後研修を開いてほしい内容

- ・インフルエンザなどの一般的な感染症

と同様に、新型コロナウイルスに関する研修も毎年必要になってくると思う。ワクチン接種後の対応等についても受講したいと考えている。

### 実地研修中の質疑

Q：上層階で新型コロナウイルスの感染が発生した場合、エレベーターの扱いはどうすればいいか。

A：マスクをしたうえで、接触部分の消毒をすれば使用可能である。マスクをしていない感染者が利用した場合は、最低2時間をあけて消毒して使用する。どうしても心配であれば2台のうち1台を感染者専用とする。

Q：感染疑いのある人がいる場合、接触部分以外で床の消毒は必要か。

A：感染予防の標準的な解釈では床からは感染しないと考えられている。心配であれば、そのゾーンから出るときに靴裏消毒を実施するとよい。



## ⑧社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団 神戸愛生園

### I 実施法人、事業所概要

- ・都道府県：兵庫県
- ・サービス類型：入所系事業、通所系事業
- ・障害種別利用者数：知的障害者 769 名、精神障害者 23 名、身体障害者 1,753 名、重度心身障害者 77 名
- ・職員数：72 名（現場スタッフ 56 名、事務スタッフ 16 名）



### II 講師概要

- ・萬井美貴子(医療法人川崎病院 感染管理認定看護師)

### III 法人が行っている感染症対策および課題

#### 感染症教育

- ・現場系スタッフ、事務系スタッフ共に感染症対策の研修は実施できていない。
- ・吐物処理、感染症発生時の対応訓練について実施を計画中である。

#### 感染症対策

- ・新型コロナウイルス対応指針を作成し、それに沿って職員に行動するよう促している。
- ・利用者の外出、帰省および職員の流行拡大地域への移動は自粛を要請している（県をまたぐ移動については施設長に申告している）。
- ・実習生、ボランティアの来園についても自粛を要請している。
- ・面会は施設玄関でパーテーションを使

用して短時間で実施している。

- ・職員については、入所施設と通所施設の行き来を禁止している。また、出退勤時の検温を実施しているほか、手洗い、消毒の徹底、マスクや電解次亜水を無料配布している。
- ・利用者の食事介助時にはゴーグルを着用し、食事テーブルにはパーテーションを設置している。

#### 感染症対策委員

- ・感染症対策委員を設置しており、年間 5 回委員会を開催している。委員会では各種感染症対策研修の企画や感染症対策マニュアルの改訂を中心に実施している。

## 法人が考える課題

研修の事前アンケートでは新型コロナウイルス対策に関して以下のような課題・疑問が施設から挙げられた。

- ・法人内で新型コロナウイルス対応マニュアルを作成し、感染の恐れのある利用者が発生した場合、および感染者が発生した場合の対応を共有しているが、その内容が適切か知りたい。
- ・建物構造的にゾーニングが難しく、新型コロナウイルスの感染者発生の際の区割りについてアドバイスをもらいたい。

## IV研修実施過程

- ・感染対策管理の基本解説
- ・感染発生時の対応解説（職員の質問に答える形式で進行）
- ・手洗い、マスク、エプロン、ガウン、手袋装着演習
- ・演習をふまえたうえでの質問とそれに対する回答



## V特記事項

- ・施設側からの希望で施設内のラウンドはせず（入居者の方々の生活に支障があるため）、図面を見ながらのゾーニング指

導を行った。

- ・質疑応答では、職員が「ここまでやる必要があるのか」「これで合っているのか」と普段感じていることについての質問が多く出た。

## VI受講後の受講者の感想

研修の事後アンケートでは研修の内容について以下のような感想があげられた。

### 受講者の感想

- ・これまで法人内で実施してきた新型コロナウイルス対策について評価していただき、法人として自信になった。また、更なる注意点を示していただいた点がよかった。

### 今後研修を開いてほしい内容

- ・新型コロナウイルス対策に限らず、他の感染症対策についても施設内を見てもらいながら、アドバイスを頂きたい。

### 実地研修中の質疑

Q：トイレや浴室は共同で、長細い構造の中央に静養室が配置されていて、ゾーニングが難しい。重度者が多いため、個室でポータブルトイレを使うということもできないがどのように対策をすればよいか。

A：できるだけ建物の一番端の個室に感染者（疑いも含む）を移動させ、感染者がトイレを利用している時は、他の利用者には待ってもらい、消毒後にトイレ利用するのが望ましい。状況によってできない場合は、窓と扇風機（ドア側）で換気をしながら、共同で利用するとよい。

また、敷地内の別の建物を、感染者専用とすることができれば、そのほうがよい。

Q：職員の休憩時に気を付けることはあるか。

A：（講師が勤務する）病院では、休憩室に入った時間と出た時間を各自記録している。記録することによって、自身でも何分間マスクを外していたのかを意識するようになるし、職員の中から新型コロナウイルスの感染者が出た場合に、保健所にすぐ報告することができるため、調査がスムーズになる。対面に座る、静かに食べる、などの対策はすでにしている場合であれば、記録を試してみるのもいいと思う。

Q：デイサービスの利用者には、施設側でコップを提供している。新型コロナ感染を意識してからは、毎回塩素消毒をしているが、疑いのない利用者のもので塩素消毒する必要はあるのか。

A：ない。咳が出ていたり、いつもと体調が違う人がいたら、塩素消毒までしたほうがいいが、そうでなければ洗剤で洗って、しっかり乾燥させていれば十分。

Q：換気扇のない部屋はどう換気をすればいいのか。

A：外側の窓を開け、部屋の入口側に扇風機を置いて、窓に向けて送風することで、施設外への換気を促すとよい。

Q：オゾン発生器が1台あるため、新型コロナウイルスの感染者が出た部屋に設

置しようと思っている。使い方で注意することはあるか。

A：設置するのはよい。ただ、感染者が室内にいる以上、飛沫や体液、排泄などで部屋は汚染され続けるため、設置したから安心ではなく、通常通り、換気や消毒などは行ったほうがよい。



## ⑨社会福祉法人 ひらきの里

### I 実施法人、事業所概要

- ・都道府県：山口県
- ・サービス類型：入所系事業
- ・障害種別利用者数：知的障害者：58名
- ・職員数：41名（現場スタッフ37名、事務スタッフ4名）



### II 講師概要

- ・神崎多紀子（山口赤十字病院 感染管理認定看護師）

### III 法人が行っている感染症対策および課題

#### 感染症教育

- ・ゾーニングについてのマニュアルの作成、および手袋・ガウンの着脱方法について講習を行っている。

#### 感染症対策

- ・利用者および職員に対し、手洗い消毒を徹底しているほか、毎日の検温結果を記録している。
- ・頻繁に窓を開け、施設内の換気を行っている。
- ・保護者に対しては利用者の外泊外出の自粛を要請している。利用者の外泊中に体調不良が起きた場合は自宅での静養や病院への通院を要請しているほか、帰園時には外出報告書に記入を依頼している。
- ・また、令和3年2月現在、感染症予防委員会は設置しており、各事業所で必要に応じその都度、検討を行っている。

#### 法人が考える課題

研修の事前アンケートでは新型コロナウイルス対策に関して以下のような課題・疑問が施設から挙げられた。

- ・利用者の感染が確認された場合、職員は自宅と職場の往復が可能か知りたい。
- ・利用者の感染が確認された場合、そのままの部屋で過ごすべきか、隔離すべきか知りたい。

### IV 研修実施過程

- ・防護服の着脱法（演習）
- ・ゾーニングの現地指導（実際に各ユニット等をまわり、リーダーヘゾーニングエリアを指導。職員や入所者の動線等を考え、着脱エリアやレッドゾーンを設定）



## V 特記事項

・実際に施設内をラウンドしながらゾーニングの指導は時間がかかったが、施設職員が考えていたゾーニング方法の修正ができ、現実的なオペレーションが可能となった。

・着脱演習のガウンについては施設内で使用するものを使った。

・備蓄ガウンの種類・使用について、背中が開いたガウンで対応ができるかは今後とも検討が必要である。

・エリアごとにドアの鍵を使い分ける必要があるが、鍵の置き場所をどうするかについては今後とも検討が必要である。

・また、感染発症時の、ごみ処理について、各事業所で置き場の再検討と処理業者との回収のための協議が必要である。

## VI 受講後の受講者の感想

研修の事後アンケートでは研修の内容について以下のような感想があげられた。

### 受講者の感想

・ゾーニングについて、専門家との意見交換ができたことや、防護具の着脱の再確認できた点がよかった。

### 今後研修を開いてほしい内容

・他県での先行事例（感染対策に加えて、対策備品で有用であったもの/それほど必要でないものの情報や、入院・入所系の勤務体制のひな形、感染に応じた業務での必須事項等、また刻々と状況が変わる中で保健所含む行政とのやりとりの中で、事業所が知っておくべき情報）

についての研修があるとよい。

### 実地研修中の質疑

Q：足元の消毒対策として、食堂で唾をはく利用者がいるため、長靴を使用するか検討している。長靴は次亜塩素酸ナトリウムをマットにしみこませて消毒する予定であるがどうか。

A：次亜塩素酸ナトリウムをマットにしみこませても効果はない。使い捨てのシューカバーを使用するのがよいのではないかと。

Q：新型コロナウイルスの感染者のゴミやリネンの対応はどうすればよいか。

A：早急に回収業者の活用を検討するとよい。ただし業者によって3～7日放置分しか回収せず、保管スペースを検討する必要がある。

Q：新型コロナウイルスの感染者と感染していない人の洗濯機を共有してもよいか。

A：洗濯室で感染性のものと非感染のものがまじわらなければ共有可能である。洗濯機は、熱水洗濯ができれば、共有しても問題ない。



## ⑩社会福祉法人 第一長崎慈光園

### I 実施法人、事業所概要

- ・都道府県：長崎県
- ・サービス類型：入所系事業、通所系事業
- ・障害種別利用者数：知的障害者 60 名
- ・職員数：38 名（現場スタッフ 35 名、事務スタッフ 3 名）

### II 講師概要

- ・藤田利枝（県北保健所所長）

### III 法人が行っている感染症対策および課題

#### 感染症教育

- ・一般的な感染症についての研修は年に 2 回実施し、新型コロナウイルス感染拡大後も標準予防策についての研修を実施した。研修の内容はマスク着用の方法やアルコールの各自持参などについての講習であった。
- ・現場系、事務系ともに職員に対し感染症対策のマニュアルを配布し、内容の周知徹底を図った。

#### 感染症対策

- ・各職員にアルコール消毒液の持参を要請している。
- ・棟内清掃時や送迎車のアルコール消毒を徹底している。
- ・有線放送の曲を活用して、日中 4 回一斉に施設内の換気を行っている。
- ・長崎県の健康管理アプリ「N-CHAT」を導入し、職員に各自午前と午後の 2 回体温と体調を入力してもらい職員の体調

を把握している。

#### 感染症対策委員

- ・令和 3 年度より感染症対策委員会を設置する予定である。

#### 法人が考える課題

研修の事前アンケートでは新型コロナウイルス対策に関して以下のような課題・疑問が施設から挙げられた。

- ・施設が広く、居室は 2 人部屋でかつ空室もないため、ゾーニングの方法を知りたい。
- ・利用者の中には裸足で歩く人や居室でじっとしていることが出来ない人がいる。また、マスクの着用ができないなど利用者によって特性がある為、感染拡大につながることを懸念している。

### IV 研修実施過程

- ・ゾーニングの現地指導（実際に各ユニット等をまわり、リーダーへ支援時の注意点などを指導。職員からの質疑についても随時、現場で対応）
- ・防護服の着脱法（演習）



## V 特記事項

・施設内での日常、非常時の対応マニュアルが整備されていたが、細かな疑問点が今回の研修で解決されたように思われる。

## VI 受講後の受講者の感想

研修の事後アンケートでは研修の内容について以下のような感想があげられた。

### 受講者の感想

- ・施設内で新型コロナウイルスの感染者が出た場合のゾーニングの方法や、衣食住に関する細やかな内容を知ることができてよかった。
- ・現在施設で使用している物品や準備している物品の使用法や注意点等について実際に実践を通して学ぶことができてよかった。

### 今後研修を開いてほしい内容

・新型コロナウイルスが収束した後においても、他の感染症が流行する可能性があるため、施設職員を対象とした感染症対策の研修を年に1回でも実施したい。

## 実地研修中の質疑

Q：PCR検査をするとき唾液が出せない人がいるが、よい対処法はないか。

A：自分で唾液を出せる人、出せない人を事前に把握しておくことが必要である。唾液を出せない人は歯ブラシで取ることも可能である。また、ガム式の採取キットや脱脂綿を噛ませてから採取することもできる。

Q：2人部屋の1人のみが感染した場合の対応はどのようにすればよいか。その後も2人とも同室で問題ないか。

A：1人は陽性者、もう1人は濃厚接触者となる。濃厚接触者が陽性でない限り、別室で管理することが望ましい。最初は陰性でも、同室に居続けることで感染リスクが高まる。

Q：新型コロナウイルスの感染者の洗濯は80℃で10分は必要か。

A：洗剤に界面活性剤は入っているため、通常の洗濯で可能であるが、感染者のもので排泄物等目に見えて汚染があるものは、非感染者のものと分けて洗濯するのが望ましい。



## ①社会福祉法人落穂会 あさひが丘学園

### I 実施法人、事業所概要

- ・都道府県：鹿児島県
- ・サービス類型：入所系事業、通所系事業、訪問系事業
- ・障害種別利用者数：知的障害者：120名
- ・職員数：93名（現場スタッフ89名、事務スタッフ4名）



### II 講師概要

- ・酒井真博（社会医療法人緑泉会米盛病院感染管理認定看護師）

### III 法人が行っている感染症対策および課題

#### 感染症教育

・年に1度、職員会議を利用して全職員にインフルエンザや食中毒などの感染症対策の研修を実施し、標準予防策の知識を習得している。また、年に1度施設内の看護師が各部署を回り嘔吐物の処理方法等について実際に使用する道具を用いて講習する機会を設けている。

#### 感染症対策

- ・県外へ外出予定のある職員や利用者は、上司へ相談し、県外での行動を確認した上で、必要に応じて出勤の制限を行っている。
- ・家族以外（いつも食事を共にしない家族も含む）との食事を自粛している。

#### 感染症対策委員

感染症対策委員会を設置し、令和2年5月以降は2週間に1回程度新型コロナウイルス対策会議を開催し、感染症対策マニュアルの策定や、衛生用品の備蓄状況の確認、利用者・職員の体調把握、家族等を含む周辺の感染状況の共有等を行った。本会議では、感染拡大状況に応じて「感染拡大対象地域」を設定し、対象地域への往來の自粛を要請するとともに、利用者・家族・職員がやむを得ず対象地域を訪問したり、対象地域居住者と接触した場合に利用の自粛や自宅待機を求める措置を定め、利用者・家族・職員に周知しそれによって対応している。

#### 法人が考える課題

- 研修の事前アンケートでは新型コロナウイルス対策に関して以下のような課題・疑問が施設から挙げられた。
- ・施設内で感染が起こった場合の利用者支援の方法が知りたい。重度の障害がある利用者もいるため利用者の理解力によっては、静養ができない場合がある。環境変化に敏感で入院が難しい利用者の施設内での対応等が知りたい。
  - ・新型コロナウイルスの感染者・濃厚接触

者になった職員が出勤できないことにより、職員不足となった際の体制をどうすればよいか悩んでいる。

- ・自分の施設でのゾーニングの方法を知りたい。

#### IV研修実施過程

- ・講師施設内視察
- ・講義（座学）  
感染症の基本  
標準予防策、経路別予防策  
新型コロナウイルスに関する対策  
ゾーニングの考え方  
ゾーニングの方法
- ・質疑応答・PPE 着脱演習



#### V特記事項

- ・講義前に施設内の視察をしたことで、講義中や質疑応答にもその状況を踏まえて講師が解答することができた。（入居者がマスクなしで密になっている状況や職員の食事スペースや状況などを事前に把握できた）
- ・防護服(ガウン)は脱ぐ際に首ひもや腰ひもをちぎって外すため、ビニール製の

使い捨てのものを使用して研修を行うのがよいように思われた。

#### VI受講後の受講者の感想

研修の事後アンケートでは研修の内容について以下のような感想があげられた。

##### 受講者の感想

- ・これまで報道や見聞で得ていた知識を、具体的に分かりやすくまとめた資料を基に説明していただいたことで、より理解に繋がった。また、防護服の取扱い等も実際にやっていただけたことも良かった。
- ・マスク着用の大切さを再認識できた。ついやってしまう「鼻マスク」「顎マスク」も普段の生活の中での癖が影響されると聞き、気を付けなければと思った。また、マスクを外す場面、主に食事場面等、ウイルスが拡散されることのないよう「黙食」の実行に努めようと思った。
- ・ケアの最後に手洗いを忘れない、指先を意識して洗う事、手指消毒は、更に意識して実践しようと思った。
- ・ゾーニングについては、情報だけでは細かい部分の理解ができていなかったが、他の感染症対応の際も汚染区域を広げないという意識をもって対応したいと感じた。



## ⑫社会福祉法人 みんなでいきる

### I 実施法人、事業所概要

- ・都道府県：新潟県
- ・サービス類型：入所系事業、通所系事業
- ・障害種別利用者数：知的障害者、精神障害者、身体障害者、重度心身障害者
- ・職員数：71名（現場スタッフ65名、事務スタッフ6名）



### II 講師概要

- ・村田忍（上越総合病院 感染症認定看護師）

### III 法人が行っている感染症対策および課題

#### 感染症教育

- ・現場スタッフを対象に入職時に感染症対策の研修を実施している。また、年に1回一般的な感染症対策の研修を実施しており標準予防策の知識は身に付けている。
- ・事務系スタッフに対しては感染症対策の研修は実施できていない。

#### 感染症対策

- ・職員に対しては、マスクの着用、手指消毒や体温計測の実施などの基本的予防策を徹底している。
- ・施設内に空間除菌脱臭機を設置するなど、施設内の消毒を徹底している。
- ・感染拡大地域への外出については利用者に対して自粛を要請している。やむを得ない理由がある場合には、PCR検査を実施している。

#### 感染症対策委員

- ・感染症対策委員会に該当する会議体を設置しており、年間12回開催している。委員会では、感染症予防に特化した形ではなく、職員および利用者の健康管理研修の事前アンケートでは新型コロナウイルス対策に関して以下のような課題・理を行うための研修についても実施している。

#### 法人が考える課題

- 研修の事前アンケートでは新型コロナウイルス対策に関して以下のような課題・疑問が施設から挙げられた。
- ・施設内で新型コロナウイルスの感染者が発生した場合のゾーニングの方法について知りたい。



## IV研修実施過程

- ・施設における感染対策研修（座学）
- ・PPE（個人防護具）の着脱方法実践
- ・手指消毒 飛沫感染対策の実践
- ・飛沫・空気・接触感染対策の実践
- ・ゾーニングの現地確認指導

## V特記事項

・上越エリアでクラスターが複数発生している中での実地研修となったが、講師の村田氏は病院でのリアルな対応談を発信、施設職員も身近に迫るリスクを感じながらの充実した研修となった。

## VI受講後の受講者の感想

研修の事後アンケートでは研修の内容について以下のような感想があげられた。

### 受講者の感想

- ・座学による基本的な感染予防対策だけでなく、手指消毒、PPE（個人防護具）の着用などの演習もあった点がよかった。
- ・実際に施設内で陽性者が発生したことを想定したゾーニングの方法や感染対策について学ぶことができてよかった。
- ・事前に講師の方が見学に来てくれたり、電話による感染症対策の実施状況についてのヒアリングをしてくれたことにより事前に状況を共有することができてよかった。

### 今後研修を開いてほしい内容

- ・特になし

## 実地研修中の質疑

Q：施設内の消毒は具体的にどう実施することが望ましいのか。

A：1日に2回、共有スペースは全て消毒することが望ましい。エレベーター内や階段の手すり、ドアノブの消毒は忘れがちとなるため注意が必要である。

Q：食器の洗い方はどのようにするのがよいか。

A：基本的には熱水洗浄にするのがよいが、ハイターなどの利用も効果的である。施設によっては個人使用以外の食器を使い捨てるものに変更しているケースもある。

Q：防護服の付け方で正しい順番を覚える良い方法はないか。

A：「ガマゴテ」と覚えると良い。ガウン、マスク、ゴーグル、手袋の順番で着脱する。着脱の順序は大変重要である。

Q：共同の洗面所を使用後シンクやまわりを消毒するする必要はあるか。

A：シンクはもちろんのこと、コック等も消毒する必要がある。

Q：石鹸・流水の手洗いと、アルコール消毒ではどちらが効果的か。

A：汚物などが付着している場合は流水が基本だが通常の場合であればアルコールでの消毒が効果的である。

Q：職員の健康管理で気をつけることはあるか。

A：健康状態の確認は必須である。発熱がなくても咽頭痛や強いだるさを感じた

場合は出勤を控え、病院を受診するのがよい。発熱がある際に、解熱剤を服用し自己判断で問題ないと解釈するのは危険である。



## ⑬社会福祉法人 社友会 リバティ神戸

### I 実施法人、事業所概要

- ・都道府県：兵庫県
- ・サービス類型：入所系事業
- ・障害種別利用者数：知的障害者1名、精神障害者1名、身体障害者：50名
- ・職員数：54名（現場スタッフ46名、事務スタッフ8名）

### II 講師概要

- ・新井まゆ子（神戸市立西神戸医療センター 感染症看護専門看護師 感染管理認定看護師）

### III 法人が行っている感染症対策および課題

#### 感染症教育

- ・現場職員は、入職時に感染予防マニュアルをもとに研修を実施し、その後は外部講師を招いて年1～2回の感染対策研修を行っている。利用者に感染症が発生した場合は、その都度職員に対し対策の説明を行っている。
- ・事務系職員には、手指消毒の方法およびマスク着用の指導を実施している。

#### 感染症対策

- ・全職員に不織布マスクを必要量配布し、職場での着用を徹底している。現場職員はアルコール消毒液を持ち歩きこまめに消毒している。職員には県外旅行・密になる外食などは自粛を呼びかけ、出退勤時に体温測定をして発熱などがある場合は欠勤としている。
- ・施設内のゾーニングとして部外者・他

部署の職員は原則立ち入り禁止とし、ショートステイは一部利用者を除き、可能な限り個室で過ごすことを要請している。

- ・入所前に病院で入院していた利用者は個室で2週間隔離としている。
- ・家族との面会はリモートとし、食事は間隔をあけてパーティションを使用している。
- ・定期的な換気・消毒を行っている。

#### 感染症対策委員

- ・感染症対策委員を設置し、年間3回委員会を開催している。委員会では感染予防の状況確認、マニュアルの改善、施設内研修の実施などを検討している。

#### 法人が考える課題

研修の事前アンケートでは新型コロナウイルス対策に関して以下のような課題・疑問が施設から挙げられた。

- ・マスクの着用や個室対応が困難な入所者がおり、万一新型コロナウイルスの感染者が出た場合にどのような対策を取ったら良いのか知りたい。
- ・職場として、職員の行動制限や行動把握がどの程度必要か知りたい。
- ・施設内で新型コロナウイルスの感染者

が発生した場合は、職員は限定して出勤したほうが良いのか、それともいつも通りのシフトで出勤しても良いのか知りたい。

#### IV 研修実施過程

- ・感染対策マニュアルの補足説明（座学）
- ・エプロン、手袋、ゴーグルの装着体験（実技）
- ・施設内をラウンドしながらゾーニング指導
- ・体験をふまえたうえでの質疑応答



#### V 特記事項

- ・施設内をラウンドしながらゾーニング指導を行ったため、時間はかかったが、細かい質問に回答することができたため、施設職員の納得感はあったように思われる。
- ・一方で、講師が所属している病院とは建物の構造や導線が違うため、アドバイスはしたものの、施設内で話し合っ決めてもらうしかない部分も多くあった。
- ・施設内の看護師と介護職の意識の差が大きいように感じたため、全職員を集めて感染症対策研修を実施するとよいよう

に思われた。

#### VI 受講後の受講者の感想

研修の事後アンケートでは研修の内容について以下のような感想があげられた。

##### 受講者の感想

- ・施設として考えていたリスクに対し、具体的な対処基準やアドバイスが聞けた。実際の施設の環境について、改善点を示してもらえた点がよかった。

##### 今後研修を開いてほしい内容

- ・清潔保持や消毒の具体的な方法
- ・新型コロナウイルス以外の白癬菌など日常的な感染対策の具体的な方法

##### 実地研修中の質疑

Q: 病院を受診した入居者は、感染リスクが高いと考えて2週間隔離しているが、その対応でいいのか（クリニック受診者は隔離していない）。

A: 病院もクリニックも、感染リスクという意味では同列であるため、病院受診者を感染リスクがあると考えたら、クリニック受診者もリスクがあるべきだと思う。ただし、全員を隔離するのが現実的には難しいため、入院から退院してきた方のみ隔離する考えたらいいと思う。

Q: エプロンは、入居者の介助をするたびに替えたほうがいいのか。

A: 介助の濃厚度によるが、飛沫や排泄など曝露リスクがあるなら、毎回替えるほうがよい。ただし、毎回替える場合には

費用がかかるため、介助の濃厚度によって使用頻度を変えるなど工夫をするとよい。現状、エプロンとマスクだけのようだが、ゴーグルかフェイスシールドはぜひ装着することをおすすめする。

Q: 新型コロナウイルスに近い症状が何名かに出た場合、症状が出たタイミングがずれていても同じ部屋で隔離していいのか。

A: 同じ部屋でよい。ただし、症状が出たタイミングを記録するなどしておく必要がある。

Q: 重度者を抱きかかえて移動する場合、エプロンをつけたほうがいいのか。

A: つけたほうがよい。

Q: 口腔ケア時に、うがいをした水はどこに捨てるのがよいか。

A: 導線にもよるが、トイレに捨てるのが安全。洗面所にするなら、捨てる洗面台を指定し、毎回洗浄するなどルールを決めたほうがよい。

